

平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区 分	指 導	題 名	業務用向けほうれんそうの露地栽培に適する品種(秋どり)		
[要約]業務用向け秋どり作型では、総合的に最も優れている品種は「パワーアップ7」である。「クロスロード」「ラウンドセブン」は実用性が低い。					
キーワード	ほうれんそう	品種	業務用	県北農業研究所 園芸研究室	

1 背景とねらい

業務用向けほうれんそうは全国的に冬春期の出荷がほとんどを占めており、近年増加傾向にある夏秋期フレッシュ需要への対応が求められている。また、業務用の単価に対応するためには、収量性のみならず作業性にも優れる品種が必要となる。そこで、本県の気象条件下において、露地栽培で収穫が可能となる秋どり作型に適する品種を選定する。

【要望機関名：全農岩手県本部】

2 成果の内容

(1) 秋どり用品種の特性は下表のとおりである(表1、表2、図1、写真1)

品種名	べと病抵抗性レース	耐葉先枯れ症	葉色	収量性	作業性	収穫作業時間あたりの収量	総合評価
パワーアップ7(1~7)							
葉多坊(1~7)							
スパイダー(1~7)							
パドック(1~7)							
デュエル(1~7)							
トラッド(1~5)							
パラデシア(1~7)					×		
クロスロード(1~7)					×	×	×
ラウンドセブン(1~7)						×	×

:強~ :弱 :濃~ :淡 :多~ :少 :優~×:劣 :優~×:劣

- (2) 葉先枯れ症が少なく、濃緑で収穫作業時間あたりの収量が優れることから秋どり用品種としては「パワーアップ7」が適する。
- (3) 「クロスロード」「ラウンドセブン」は収量性および作業性に劣ることから業務用向け秋どり作型の品種として実用性は低い。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 本成果では、収穫の目安を草丈 40 cm、株元 3 cmの葉柄径 1 cm未満、コンテナ出荷、抽たい株や葉先枯れ株および雑草等の混入厳禁を前提として収量性や作業性を調査した。
- (2) 「トラッド」はべと病レース 1 からレース 5 までしか抵抗性を有しない。
- (3) 葉先枯れ症の発症量が少ない品種であっても、石灰を十分施用し、また過剰施肥を避けるなどの対策を講じること。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者：業務用ほうれんそう栽培を導入する産地の指導者
- (2) 期待する活用効果：業務用ほうれんそうを導入する際の参考となる

5 当該事項に係る試験研究課題

(H20-08)「業務用需要に対応できる野菜生産技術の確立」(平成 20 年~平成 22 年, 独法委託)
 外部資金課題名：業務用需要に対応した露地野菜の低コスト・安定生産技術の開発(実用技術開発事業)

6 研究担当者

田代 勇樹

7 参考資料・文献

平成 19 年度 北海道農業研究成果情報「加工用ほうれんそうの露地栽培技術」

8 試験成績の概要(具体的なデータ)

表1 秋どり作型用品種の特性(H20~H21)

品種名	収量性					業務需要特性		作業性	
	栽培日数 (日)	草丈 (cm)	生存株率 (%)	葉先枯れ発症率 (%)	調製重 (g)	葉色 (SPAD)	葉柄比 (葉身長/葉柄長)	10a収穫時間 (h/10a)	1株収穫時間 (秒/株)
パワーアップ7	54	36.7	93.0	1.7	55.8	53.6	0.577	121.7	6.74
葉多坊	54	37.4	90.6	1.7	54.7	51.2	0.592	129.1	7.79
スパイダー	54	43.6	75.7	3.3	71.7	47.2	0.562	131.1	9.38
パドック	51	37.4	88.3	3.3	52.3	42.1	0.632	134.2	7.73
デュエル	56	34.6	80.7	11.3	80.6	49.0	0.663	131.8	9.86
トラッド	54	42.2	77.8	1.7	78.1	37.2	0.667	146.4	10.04
パラデシア	54	38.2	93.8	0.0	59.8	46.0	0.580	157.8	8.96
クロスロード	51	38.4	69.7	8.3	70.7	46.5	0.609	143.4	10.13
ラウンドセブン	54	36.4	89.2	18.3	56.9	42.6	0.559	147.7	8.95

注) 収穫時間調査はH21のみで、それ以外はH20とH21の2か年の平均値を用いた。

耕種概要: 20×7cm 4条 露地平畝栽培(全試験共通)、播種日 9/8(H20)8/12(H21)、施肥量は表1に同じ。

作業時間調査方法: 0.5m×0.8m(4条)区間の収穫・調製・雑草等混入確認・コンテナ詰めまで時間を計測(4反復)。調査は2名の作業員のみで実施し、組作業は行わず、各区1人1回ずつ割り当てて実施した。また、各区午前と午後に1回ずつ当たるように割り当てた。(表1、表2)

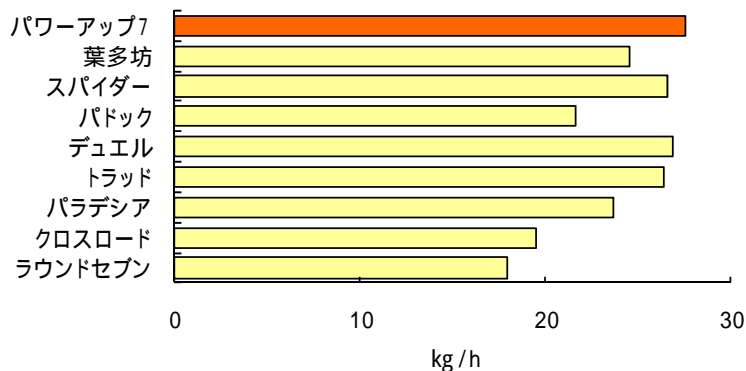
表2 秋どり作型用品種の定性評価

品種名	立性程度	葉絡み程度	発芽良否	葉形
パワーアップ7	立性	やや少ない	良い	やや剣葉
葉多坊	立性	少ない	良い	剣葉
スパイダー	中間	普通	普通	やや剣葉
パドック	中間	普通	良い	やや丸葉
デュエル	中間	普通	普通	中間
トラッド	やや立性	やや少ない	やや悪い	中間
パラデシア	中間	やや多い	良い	中間
クロスロード	やや立性	多い	普通	中間
ラウンドセブン	中間	やや多い	普通	やや丸葉

注) 基準品種「デュエル」に対して各項目5段階で相対評価した。



写真1 秋どり用品種「パワーアップ7」



注) 10a収量/10a収穫時間より算出

図1 収穫作業時間あたりの収穫量